

腸内細菌が塩分摂りすぎによる高血圧を予防

塩分消費量の多い西洋のライフスタイルは高血圧や心臓血管病を引き起す。塩分過多によりヘルパーT17細胞が誘導され、自己免疫反応が惹起されることで高血圧につながる可能性が示唆されている。ヘルパーT17細胞の誘導については腸内細菌が関与していると考えられているが、塩分が腸内細菌に与える影響についてはわかっていない。本研究では、塩分の高摂取が腸内細菌に及ぼす影響について、マウスを用いた実験により検討した。

塩分を高摂取させたマウスに、乳酸菌ラクトバチラス・ムリヌスを与えたところ、ヘルパーT17細胞の働きを抑制し、自己免疫性脳脊髄炎および塩分による高血圧の重症化を抑制した。

今回の結果から、塩分の高摂取が腸内細菌に影響を及ぼすことが示唆され、塩分過剰摂取による疾患の治療に腸内細菌が注目されるであろう。

出典：Nature. 2017 Nov 30; 551(7682): 585-589.